



◆「ななしのこんべさん」
を読んだ

中川根南部小2年 小澤麻里奈



わたしは、この本は、1ページ目を見て、子どもが生まれてよろこんでいる絵だと思いました。そして、ななしのこんべさんは、まだ名まえがついていない時のお話だと思い、たのしいうだから読むことにしました。が、本とうはせんそうの時のお話で、とってもかなしくてかわいそうなお話でした。

ななしのこんべさんとは、せんそうの時、大きくしゅうなどで家ぞくがせんぶしんでしまつて、だれもさがしてくれず、みもとのわからない人のことです。わたしは、だれかわからないなんて、その人にとつてとてもさびしくてかなしいだろうと思います。

この本に出てくるもも子は、のうせいまひであることができません。小学校も、やくしよ

から「あるかれん子は、学校にこんでもよろしい。」というつうちがきて、行くことができなくなつてしまいました。

わたしは、学校はたのしいところなので、かわいそうだと思いました。

さいごのところ、くうしゅうけいほうのサイレンで、お母さんといっしょに外に出たら、なにもかもがもえて、お母さんもどこかへとばされてしまった時は、もも子はすごくかわいと思つてドキドキしたけど、となりのまさるくんとももるくんがたすけてくれて、ほつとしました。でも、二人はとってもかわかったと思います。そのあと、川へ入ったけど、3人はだいいようぶだったの。生きてるといいな。

なんで人は、せんそうをするのだろう。たくさんの人がしんだら、けがをしたり、はなればなれになつたり、いいことはないの。

この本でも、いつもやさしいおじいちゃんも、えんまさんみたいななかおでこつてる。人までかえてしまう、そんなせんそうがこれからはありませんように。

◆「ロボママ」を読んだ

中川根第一小3年 渡邊一貴



ぼくがこの本をえらんだ理由は、どうしてママがロボットなんだろうかとふしぎに思ったからです。それから、ロボットがお母さんなんておもしろいだろうと思ひ、読んでみたくになりました。

ジェイムズのお母さんは、コンピュータをかんべきに使いこなして、大きな会社でロボットなんかのけんきゅうをしています。1日の半分いじょうは、仕ごとをしています。

でも、毎日の生活のこととなると、まるでダメみたいです。りょう理やそうじやせんたくがにが手だそうです。そのため、お母さんがかいらりょうしたロボットに、家じをしてもらうことになりました。そのロボットがロボママです。

ロボママは、てきぱきと家じ

をしてくれる、とてもおりこうなロボットです。ロボママがジェイムズの家に来てから、家の中がとてもきれいになって、ジェイムズもお母さんもとてよろこびました。

ぼくのお母さんも、毎日はいしゃではたらいしています。家の仕ごとと、はいしゃの仕ごとのりょうほうで、とても大へんそうです。だから、ぼくの家にもロボママがいたら、お母さんの仕ごとがへつて、とても楽になるだろうと思いました。

ジェイムズが、ロボママとさようならをした後に、「やっぱり、ほんもののお母さんは、ロボママとはくらべものにならないよ。」と言つた言葉が一番いいしようにのこつています。

いくら仕ごとがてきぱきときちんとして、ほんもののお母さんが一番いいにきまつていると思ひました。

もしも、ぼくがジェイムズだったら、ぜつたいに本当のお母さんの方がいいからです。ぼくが、朝学校へ行く時は、「行ってらっしゃい。がんばつてね。」と元気よく送り出してくれます。その後、まどのところからガツポーズをしてくれます。そのすがたを見ると、今日も1日ががんばろうと思ひます。それ